

動揺する東洋の 新興民族を見て

松田政一

最近、新聞や雑誌を通して、私の目に入り、心に掛る問題は、東南アジアやアフリカの、新興諸国の民族独立運動と、その在り方でありませぬ。

これらの民族運動の背後に在って、これを援助し指導している。大國との政治関係が、まかりまちがうと、第三次世界大戦に進展する危険性を、大分嫌んでおるので、対岸の火事とばかり、決して、のんきに眺めてはおられないのであります。

南北ベトナムの問題は、その代表的なものでありませぬ。私共は、これらの新興諸國が、武力によつてでなく、何とかして、話し合いによる民主的な方法に於て、平和裡に解決され、共存共榮に向つて進んでくれる様にと祈らずにはおられないのであります。

東洋に於て、真の平和を持つてゐる、唯一の先進國にしての吾々日本人は東洋の諸國民に対して、大きな責任があるという事を、大変おくれればせよ、恥かしい限りであります。最近痛感せしめられるに到つておるのであります。

十年前、当時霞町教会の牧師であられた、吉持久雄師は、御自分が戦前中国や滿州に伝道しておられた関係上、海外宣教に重荷を感じ、教団内には非「国外宣教部」をもつけ、前向きな姿勢で折り考へるべきであると主張され、一応「国外宣教部」が設置されましたが有名無実なもので、私自身の不信仰と夢のない幻の無かつたことを懺悔し、告白せざるを得ないのであります。

新しく目醒めつつある、東洋全体の為に、私共日本の基督教は、もつと深く責任を感じ、喜んでこれに奉仕出来るものとせられたいものであります。

七十五才の再出発

吉持章

創世記十二章を見ると、そこで信仰の父アブラハムは、神より二つの約束を得て再出発している。

その一つは「汝は祝福の基となるべし」、である、今一つは、「地のすべてのやからは、汝によりて祝福さるべし」であつた。

私はまた、今度の両先生の手をわすらわして、沖繩及び台湾の教会に我々からの心ばかりの贈り物として百冊づつの新約聖書を贈りたいと願つています。

私は、また皆様の信仰の祝福の為に、もう一つの具体的な提案を致したいと思います。それは、皆様すでに御協力下さつておられると思いますが、国外宣教部は今年四月に全教団教会に計六十個の献金箱をお配り致しました。

願いと云ねばなりません。自國の財、自國の人を持つてすべき事であり、決して他國の財を受け自國の人を送ると云うような、足なえ宣教に脱してはなりません。

この宣教版は出来れば年三、四発行したいと願つています。宣教の重荷を負つて下さる方は、宣教版の爲と明記してどしどし御献金下さればこの上ない感謝です。

全世界の何処にでも、福音未伝の地にキリストの福音をたずさえて行くと言ふ夢と幻の中に、今から

今教団總會の開會に於て、野畑先生は、実に、摘接なメッセージを下さつた、その大要は、こうである。

誰か、この宣教版の読者の中に沖繩までは片道の旅費(約一百万円)を負うて下さる勇氣のある方はないでしようか。

安藤先生の沖繩伝道は、五月末より、松田先生の台湾伝道は秋の予定、熱心な折りと、御支援をお願い致します。

あとがき

中沢教会牧師